

開発援助におけるスポーツ事業の役割に対する事業実践者の認識に関する分析
—青年海外協力隊スポーツ隊員を事例に—

47-76861 東未央

指導教員 柳田辰雄教授

キーワード：開発援助、スポーツ事業、青年海外協力隊、plus Sport、

1. 背景

社会開発のためのスポーツが、近年、開発援助の分野においても大きな注目を集めている¹。開発援助におけるスポーツプロジェクトの目的は、スポーツから一般的に想起される身体的健康等にとどまらない。スポーツとの関連が直接的には想起されにくい、エイズ撲滅やジェンダー平等の推進、平和構築といった幅広い目的を掲げた関連プロジェクトが、国際 NGO 等を中心に数多く実施されている。

Coalter(2007)は、社会開発のためのスポーツプロジェクトが、そのアプローチ方法によって“Sport plus”と“plus Sport”の二つに大別可能であると指摘している²。前者はスポーツ振興を目的とし、スポーツを振興の対象と位置づける。それに対して後者は社会問題の解決を目的とし、スポーツを手段として位置づけている³。

表1 Sport plus と plus Sport の分類

	第一目的	主な担い手
Sport plus	スポーツ振興	スポーツ団体
plus Sport	社会問題解決	人道支援団体

(出所：筆者作成)

国際的には開発援助におけるスポーツプ

ロジェクトに多大な関心が寄せられている一方、わが国において関連論文はほとんど存在しない。また、わが国のスポーツプロジェクト実施者においても、多様に展開しうるスポーツプロジェクトへの認識は、あまり高くないように思われる。

2. 目的

開発援助におけるわが国のスポーツプロジェクトにおいて、プロジェクト実施者からスポーツプロジェクトの果たす“役割”がどのように認識されているのかを明らかにし、わが国が実施しているスポーツプロジェクトの現状を把握することである。さらに、国際的潮流の中で実施されている開発援助におけるスポーツプロジェクトが、その目的を達成するために期待されているスポーツの“機能”も明らかにすることで、わが国のプロジェクト実施者と国際的潮流との間に存在する、スポーツに期待する“機能”に関するギャップを示す。

3. 対象

わが国の実施するスポーツプロジェクトとして、青年海外協力隊体育・スポーツ部門における各隊員の活動を、また、国際的潮流におけるスポーツプロジェクトとして、Sport for Development and Peace International Working Group⁴ (以下、SDP

¹ 国連は、2005年を体育とスポーツの国際年と定めて数多くの関連プロジェクトを世界中で実施した。

² Fred Coalter, (2007),

³ しかし、全てのスポーツプロジェクトを明確に区別できるわけではない、とも述べている。

⁴ 開発援助のための実用的提言をするために設置された国際ワーキンググループで、国連諸機関をはじめ52カ国の政府、国際 NGO が参加した。

IWG) が 2008 年にリリースした最終報告書内の記述を対象とした。

4. 用語の定義

a. 開発援助におけるスポーツプロジェクト

開発援助において実施される、スポーツが用いられたプロジェクト全てを、「開発援助におけるスポーツプロジェクト」と定義する。また、本研究においては青年海外協力隊個人の活動も、スポーツが用いられている限り「開発援助におけるスポーツプロジェクト」と定義する。

b. スポーツプロジェクトの果たす“役割”

スポーツプロジェクトが担っている任務のこと、及びプロジェクト開始当初の目的や意図に関わらず、スポーツプロジェクトが受益者及び対象地域に与えた変化についても、「スポーツプロジェクトの果たす“役割”」と定義する。

c. スポーツに期待される“機能”

スポーツプロジェクトがある所与の目的を果たすために、スポーツに備わっていることが期待される性質を、「スポーツに期待される“機能”」と定義する。

5. 方法

文書データに対して質的データ分析を行った。大まかな手順は以下のとおりである。

1) オープン・コーディング

まずデータを一行一行詳細に読み込み、ふさわしいコード（ラベル）を付与する。初期段階におけるコードは暫定的で、何度も付け替えられる。作業を進めていくと、比較的抽象度が高い少数の概念的コード（以下、カテゴリ）が浮かぶようになる。このカテゴリを全てのデータに付与する。

2) アクシアル・コーディング

1) で出現したカテゴリを、互いに結合し、関連付けを行う。

3) 対象カテゴリの抽出

“役割”あるいは“機能”に関するカテゴリを抽出する。

6. 結果

A. スポーツプロジェクトの果たす“役割”

表 2 わが国のスポーツプロジェクト実施者に認識されるスポーツプロジェクトの“役割”

隊員	“役割”	顧問
○	(i) スポーツマンシップの涵養	○
○	(ii) ライフスキル獲得	×
○	(iii) 楽しみ	○
○	(iv) 健康	×
○	(v) 人的ネットワーク形成	×
○	(vi) 文化交流	×
○	(vii) スポーツ振興	○
×	(viii) 発育・発達	○
×	(ix) 人間の尊厳	○

(出所：筆者作成)

B. スポーツに期待される“機能”

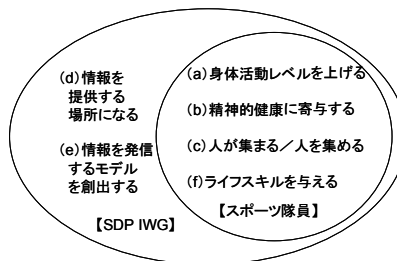


図 1 SDP IWG とスポーツ隊員に見られたスポーツに期待する“機能”比較 (出所：筆者作成)

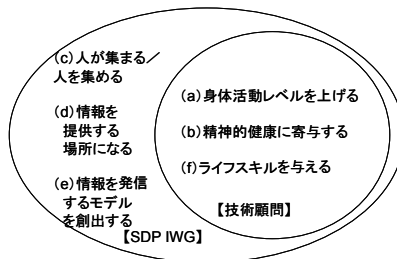


図 2 SDP IWG と技術顧問に見られたスポーツに期待する“機能”比較 (出所：筆者作成)

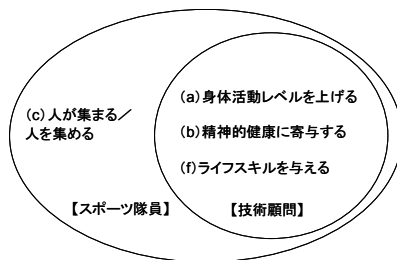


図 3 スポーツ隊員と技術顧問に見られたスポーツに期待する“機能”比較 (出所：筆者作成)

7. 結論

協力隊の活動においては、本来の目的を「途上国の経済的・社会的発展」（これは“plus Sport”に近い）としながらも、その認識から推測される活動実態は「スポーツの普及推進」、つまり“Sport plus”になっている可能性があることが確認された。